台風第19号の「その後」を生きる

昨年10月、類を見ない猛烈で超大型の令和元年台風第19号が本市を襲いました。

今回の台風を経験した「今」だからこそ、家庭ごとの防災の取り組みを見直し、防災力を高めることを考えてみませんか。

いつ発生してもおかしくない自然災害。備えを万全にして、災害から身を守りましょう。

問危機管理課☎(632)2052

台風が接近した令和元年10月12日夜のJR宇都宮駅前

「災害が少ないまち」で発生した観測史上最大の豪雨災害

「自然災害が少ないまち」として、広く知られていた宇都宮市。

しかし、昨年10月に直撃した令和元年台風第19号が私たちの日常を一変させました。

1日の降雨量が、観測史上最大の325・5mlを記録した本市。10月の平均降雨量が146・5mlであることからも、1日で2カ月分以上の雨が降ったことが分かります。

台風の脅威により、床上浸水など住家・非住家被害が発生し、現在も生活の再建に取り組んでいる人がいます（7ページ上の表参照）。

近年、自然災害が頻発・激甚化しており、今回を上回る豪雨災害などが発生する恐れがあります。

本市では、市民の皆さんが安全・安心に暮らせるよう、水害に強いまちづくりを進めていきます。

「もしもの時」あなたはどう自分の身を守る？

自然災害への備えが万全な人は、どのくらいいるでしょうか。

防災は、自分と家族の安全を自分で守る「自助」が基本です。しかし、住んでいる地域や家族構成、

タイムラインで振り返る　台風第19号

10月	時間	気象情報など	本市の主な対応
11日（金）	10:00		災害警戒本部設置
	10:37		「自主避難のため翌朝に避難所開設」を広報
12日（土）	6:19	大雨（浸水害）警報	
	8:00		避難所18カ所を開設
	12:00		災害対策本部設置
	13:30	（避難判断基準に達していない状況）	「避難準備・高齢者等避難開始」発令（姿川・田川・奈坪川流域）避難所36カ所を追加開設
	13:44	洪水・暴風警報	point　市民の皆さんが明るいうちに避難できるよう、市独自の判断で避難情報を発令。
	15:41	大雨（土砂災害）警報	
	18:45	土砂災害警戒情報	
	19:15		「避難勧告」発令（姿川・田川流域）
	19:30	氾濫危険情報（姿川）	「避難勧告」発令（上河内・河内の一部）避難所1カ所を追加開設
	19:40	氾濫危険情報（田川）	
	19:50	大雨特別警報発表	
	20:00		「避難勧告」発令（市内全域）
	20:20		「避難指示（緊急）」発令（姿川・田川流域）
	22:00		避難所2カ所を追加開設
	22:30	田川氾濫発生情報	JR宇都宮駅西口付近で田川氾濫発生を確認。
13日（日）	2:20	大雨特別警報解除	
	5:00	土砂災害警戒情報解除	
	5:30		全ての避難情報を解除
	5:59	大雨警報解除	
	15:00		避難所56カ所を閉鎖
23日（水）	11:45		全避難所を閉鎖

防災士の声

水害は、地震と違って予測できる災害です。3日前には台風がどこに上陸するかなど、正確に予報されますが、「多分大丈夫だろう」と感じることにより、なかなか避難行動に結び付きません。

水害は、災害発生前に避難が求められるので、発生した際にはすでに避難が難しくなっています。「避難が困難な状況になる前」に、避難することが重要なのです。予測できるからこそ、一人ひとりの避難行動計画「マイ・タイムライン」を作成しておくことで、災害発生時に効果を発揮させることができます。

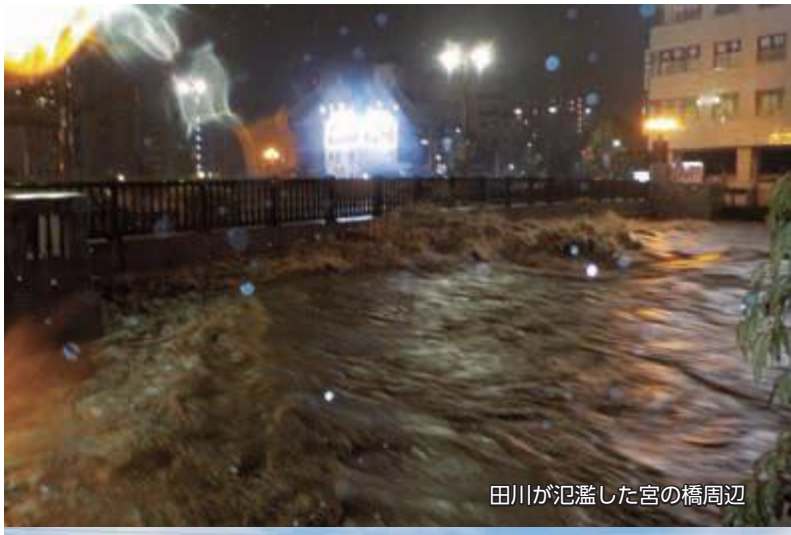
「自分だけは大丈夫。今まで大丈夫だったから今回も大丈夫」という考えからは脱却して、日頃から防災を「自分ごと化」しましょう。

県防災士会 副理事長
田﨑　瑞穂さん

■防災士とは　社会のさまざまな場で防災力を高めるため、知識・技能を修得した人。

本市の被害状況（令和2年3月23日現在）　（単位：件）

人的被害	0			
住家被害	床上浸水	636	全壊	0
			半壊	429
			一部損壊	207
	床下浸水（すべて一部破損）	390		
	住家浸水以外	96	全壊	2
			半壊	0
			一部損壊	94
非住家被害	554			



田川が氾濫した宮の橋周辺

台風が接近した数日後、路上に多くの災害廃棄物が置かれた大谷地区

家庭環境などは人それぞれ異なります。一人ひとりが自分には何が必要なのかを把握し、災害に備えておくことが重要なのです。

加えて、自主防災組織など地域住民が相互に助け合う「共助」と、行政機関による防災活動である「公助」の三面から備えることで、自然災害が発生した際、被害を最小限に留めることが期待できます。

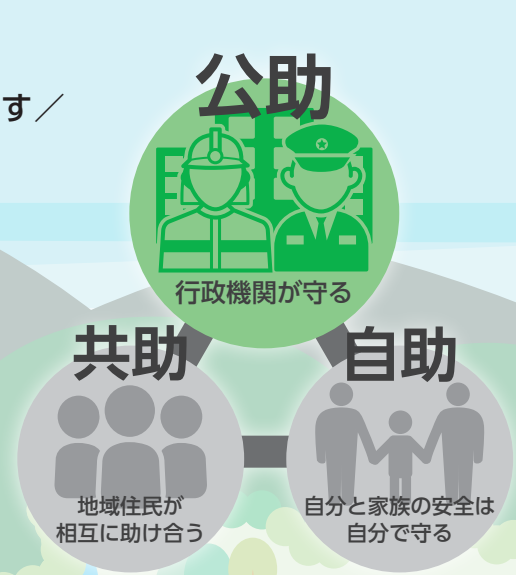
今回の台風被害。この経験を生かすことで「教訓」に変えることができます。皆さんも教訓を生かし、自分ができる「備え」について考えてみませんか。

＼台風第19号の教訓を生かし、水害に強いまちを目指します／

公助でつくる水害に備えた みんなが安心して暮らせるまち

今後も地球温暖化により、発生する可能性がある大型台風や豪雨などの水害への備えが重要です。

本市では、市民の皆さんが安全・安心に暮らせるよう、出水期前に、治水・雨水対策を強化し、水害に備えたまちづくりを進めています。



流す ＼計画的に遂行／
河川の改修・下水道の整備
河川の改修や下水道の整備を行い、雨水を安全に流す。

流す ＼強化／
河川や調整池のしゅんせつ
河川などに溜まった土砂や流木を取り除く。

貯める ＼強化／
透水性舗装・浸透ます設置
市道などで雨水を地下に浸透させ、流出を抑制する。

貯める 官民協働 ＼強化／
雨水貯留・浸透施設設置費補助金制度 ID 1002659
敷地内の雨水を貯留・浸透させ、流出抑制を図る。

一般住宅や事務所などへ雨水貯留タンクなどの設置費を最大3分の2補助（上限あり）。

詳しくは、市ホームページまたは工事受付センター☎(633)3164へ。

貯める ＼新規／
市有施設への雨水貯留タンク設置
市有施設への雨水貯留タンクの設置を率先して行い、流出抑制を図る。

防ぐ・備える ＼強化／
ハザードマップの周知徹底
市ホームページや出前講座による周知徹底。

水害に強いまちづくりを目指して

本市に甚大な被害を残した令和元年台風第19号。地球温暖化により、今後も台風の大型化や、局所的な豪雨が頻発する可能性があります。それらに備え、本市では「総合治水・雨水対策基本方針」を策定しました。

この方針に基づき、「流す」「貯める」「防ぐ・備える」の3つの柱を総合的に強化することで、水害に強いまちづくりを目指します。

▼**「流す」とは** 河川や下水道の整備などを行い、雨水を流す治水対策。

▼**「貯める」とは** 公共施設などへの雨水貯留・浸透施設の設置を促進する流域対策、農地や森林における保水・遊水機能の保全・回復を進める土地利用対策。

▼**「防ぐ・備える」とは** ハザードマップなどの災害情報提供や速やかな避難誘導などの減災・水防対策。

市民の皆さんが安全・安心に暮らせるために

本市では、台風第19号を踏まえて、浸水被害を軽減し、効果を早期に発揮できる事業に着手しています。具体的には、大規模な豪雨にも耐えられるよう、公園や学校

田んぼダムとは

水田の排水口に調整ますの設置などを行い、水田からの排水を人為的に抑制する取り組みです。大雨時に一時的に水を貯めて、ゆっくりと河川へ排水することで、下流域での浸水被害を軽減する効果があります。

本市の市街地周辺には、約9,000ha（ヘクタール）の広大な水田があり、極めて有効な取り組みです。

農家さんの声

昨年の台風第19号によって、市では1,258カ所の農地被害や市街地での浸水被害が発生しました。

田んぼダムの取り組みはやってみないと分かりませんが、「自分たちの田んぼを利用して水害を防げるのであれば協力したい」という農家は多いと思います。

うつのみや中央土地改良区では、今年、田川上流域で田んぼダム普及に取り組み、市や宇都宮大学、新潟大学と連携し、1年間を通して効果分析を行う予定です。田川で効果を数字で示すことができれば、他の河川流域での取り組みへの拡大も期待できます。

田んぼダムは、田んぼに貯めた水を段階的に流すため、一部の地区だけではなく、広範囲で取り組むことが重要です。今後の水害を防ぐためにも、多くの農家の協力が得られるとうれしいですね。

うつのみや中央土地改良区
理事長　野澤　秀昭さん

防災士の声

水害を軽減するためには、ハードとソフトが一体となった対策を河川流域一帯で行う必要があります。

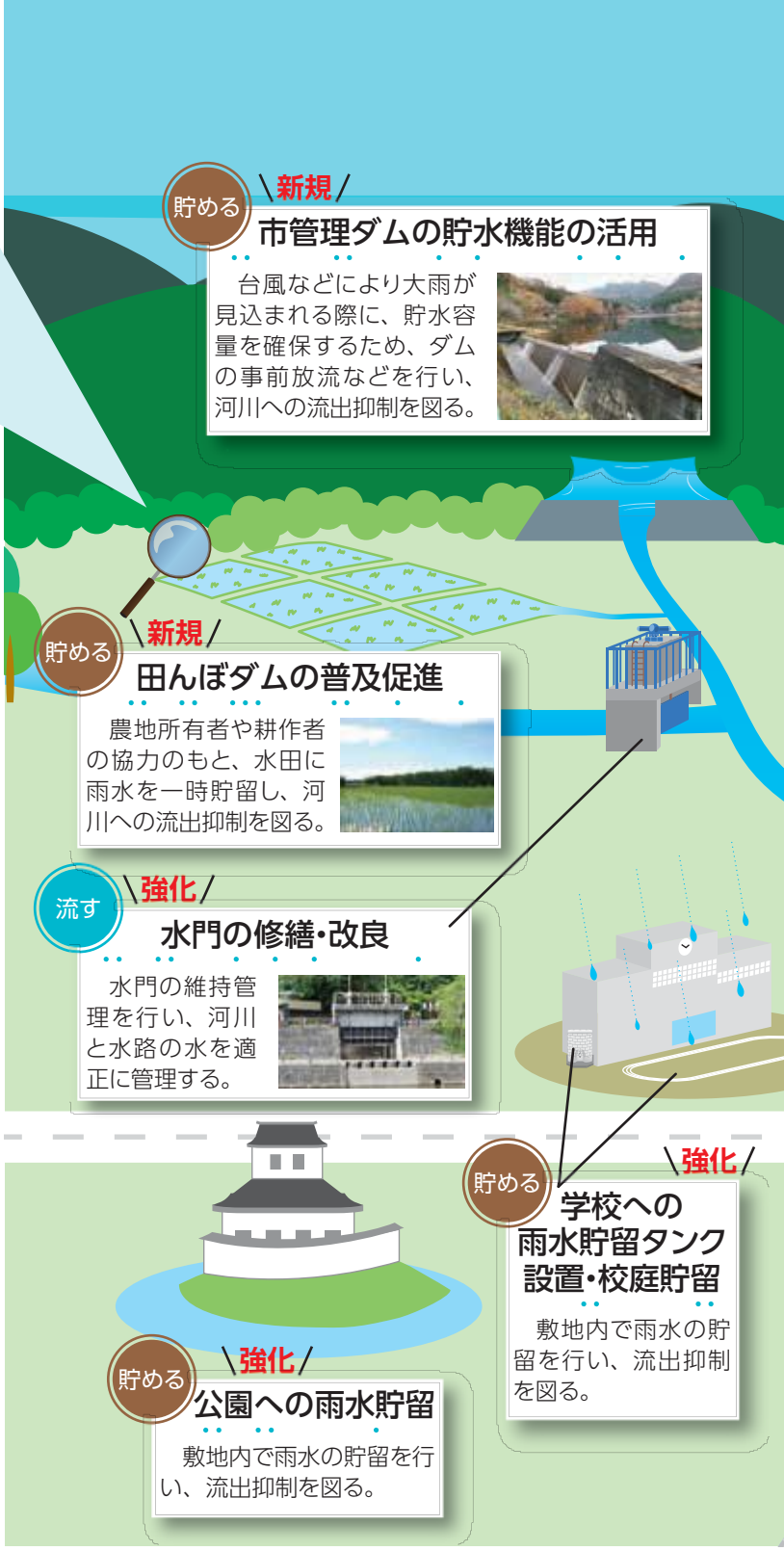
ソフト対策では、台風第19号による土砂災害でも有効だった「土砂災害ハザードマップ」が上河内地区・河内地区で2月に改訂されています。他の地区においては今年度改訂予定だと伺っています。

ハード対策の中でも特に効果が期待されるのは「田んぼダム」です。昨年の台風第19号では、県東部の五行川沿いに広がる水田がダム的な効果を発揮し、五行川の氾濫防止につながった事例があります。

このように、河川という「線」だけでなく、遊水地・調整池や田んぼなどの「面」を活用した治水で、雨水が河川に流入するスピードを緩やかにする対策が重要です。

しかし、限られた範囲や人で対応する公助には限界があるため、共助と自助とともに備えておくことで、災害発生時に被害を最小限に抑えることができます。

県防災士会 副理事長
田﨑　瑞穂さん



での貯留など、これまでも実施してきた取り組みを強化するとともに、田んぼダムなど新規の取り組みにより、約20万㎥（25mプール約600杯分）の貯留を目指し、雨水治水対策の充実を図っていきます（上のイラスト参照）。

また、近年の気候変動の影響による局地的豪雨の発生などを踏まえ、今後「総合治水・雨水対策推進計画」を策定し、水害対策を計画的に進めていくことで、「もしもの時」の被害を最小限にし、これから先も市民の皆さんが安全・安心に暮らせる水害に強いまちづくりを進めていきます。

「共助」で増やす 救える命

災害から地域を守る「共助」の一つである自主防災会。日頃から取り組む地域の支え合いが、災害時に大きな力を発揮します。

1

2

3

4

5

6

宮の原地区連合自治会長
田野實（たのみ）　和夫さん

地域一体となって、昼間の防災訓練に加え、夜間の避難所訓練にも取り組んでいる宮の原地区。
自治会長の田野實さんにお話を伺いました。

宮の原地区独自の防災訓練

平成27年に新しい取り組みを支援する「みんなの夢事業」に選ばれ、県と市から援助を受けながら年1回の防災訓練を開催している宮の原地区。

平成23年には東日本大震災が、平成24年には栃木県内で竜巻が発生したことを受け、「昼間の訓練だけではマンネリ化してしまうため、平成27年から夜間の訓練も併せて行うようになりました」と田野實さんは話します。

頼れる地域の力を

地域の人々が協力して助け合う「共助」。この共助の重要性を表したあるデータがあります。

それは、1995年の阪神・淡路大震災。「倒壊した家屋から誰に救助されたか」（日本火災学会出典）を見ると、自力・家族の「自助」は66.8％、友人・隣人の「共助」は28.1％、救急隊の「公助」は1.7％でした。

災害時、特に発生直後では、行政自身も被災していたり、道路の寸断や冠水などにより地域が孤立していたりする場合があり、救急隊がすぐに助けに行けないことがあります。このように公助の活動に限界がある中、実際に、阪神・淡路大震災では、道路に倒壊した建物が連なり、救急車や消防車など大型車が通れず、救助に向かえない地域がありました。

自分で備える自助も大切ですが、公助も行き届かない際に頼れるのは、やはり「地域の力＝共助」ではないでしょうか。

「自主防災会」が重要な理由（わけ）

地域で行える防災には、備蓄などをして災害に「備える力」と、

1発災対応型防災訓練での避難訓練　2仮設トイレの設置　3エアマットの設置　4消火器訓練
5プライベートルームの設置　6停電を想定した状態での炊き出し

地域で今から始められる
「共助」の取り組み

1 防災意識を高める
地域の行事などを利用して、住民同士で自主防災について話し合う機会を作りましょう。

また、自治体などの防災訓練や研修に参加して知識を身に付け、防災力を高めましょう。

2 災害危険箇所の把握
地域内を実際に歩いてみる「防災まち歩き」をして、防災マップを作成しましょう。

3 地域での防災訓練 ID 1023194
定期的に防災訓練に参加して、地域での避難行動や避難所の運営などを確認しましょう。

また、行政機関などのアドバイスを受けられる出前講座などを利用して、地域全体で正しい知識・技術を習得しましょう。

ID 1021326

＼地域を守る／ 消防団員を募集中

消防団員は、自分たちのまちは自分たちで守るという郷土愛護の精神に基づき、地域防災活動のリーダーとして活躍しています。

▼**入団資格**　市内在住の18歳以上で、心身ともに健康である人。

▼**身分**　非常勤特別職の地方公務員。

▼**待遇**　年額報酬、出動手当、公務災害補償、共済制度、退団報償金、被服の貸与など。

問消防局総務課☎(625)5504

＼台風第19号でも活躍！／

本市消防団は、全消防団26分団、約2,000人の地域の皆さんで組織されています。

令和元年台風第19号の際は、地域防災の中核として、河川の警戒活動や住民の避難誘導など、夜を徹して献身的に活動しました。

昼間は地域の住民や地区のリーダー約60人の他、350人以上の小学生も一緒に、防災訓練を実施。身近に起こりうる災害を想定して、避難訓練をはじめ、消火訓練やAED救護訓練、煙体験、起震車体験、要介護者の援助や救護者を車いすに乗せる訓練を行います。

夜間の避難所訓練では、夜でも活動できるように、発電機とランタンを用意する「照明確保班」の他、「簡易トイレの設置班」「プライベートルームの設置班」「非常食の炊き出し班」の4つの班に分かれ、実践的な訓練を実施。

田野實さんは、「災害はいつどこで発生してもおかしくないため、ライフラインが切れ、さらに火災が発生した状況など、過酷な条件を想定して訓練を行うことに心掛けています」と真剣なまなざしです。

台風第19号で生きた地域の備え

台風第19号の発生の際には、避難所の開設に当たって、体育館で避難者一人ひとりのスペースを確保するため、プライベートルームを設置しました。プライベートルームは畳とエアマット、毛布を使って寝床を作らなければいけません。

「事前に行っていた訓練で、エアマットを作るには風船を膨らませるバルーンポンプでは時間が掛かることが分かっていたので、避難所開設の時は自転車のポンプやコンプレッサーを使って早く設置することができました」と、日頃の訓練の成果を振り返ります。

台風第19号で見えてきた課題

「栃木県は災害が少ない」と認識されていますが、田川が氾濫し、多くの地域で床下・床上浸水の被害があった台風第19号。田野實さんは、「宮の原地区に流れる新川も溢水寸前でした。災害を身近なこととして考えることが大切」と改めて今回の台風を思い起こします。

また、地区では「普段から防災訓練をやっていてよかった」という声がありましたが、市と地域との連携など、訓練の見直しも必要だと気付かされたといいます。

田野實さんは「今回の台風での経験を教訓に、今後は、避難所運営ガイドブックに合わせて、地域に適した訓練を重ねていきたい」とまっすぐ未来を見据えています。

自主防災会の避難訓練などに参加して、災害時に「動ける仕組み」があり、市内各地区では精力的に取り組んでいます。

自主防災会は、次のようなことが期待できます。

1 平時から役割分担する　自分の役割を把握し、災害時に自主的に活動ができます。

▼出火防止および初期消火。
▼負傷者の救出・救護。
▼住民の避難誘導。
▼水・食料の炊き出しなど。

2 平時から災害を想定して地域で備えておく　仲間意識が芽生え、災害時にも一体となって対応できます。

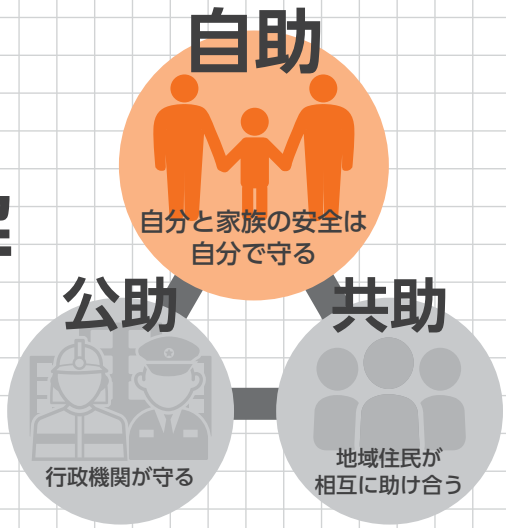
まず地域の取り組みを知って、行動に移す。そこから「共助」は始まります。

ソレ実は間違ってるかも!?

防災に関する3つの誤解

自然災害が発生し、時間が迫られている中でも、適切な判断や行動をとることで、自分や家族など大切な人を守ることができます。

その判断や行動の根拠となる「あなたの持っているその知識」は胸を張って正しいと言えますか？



1

誤解

避難って、「避難所に行くこと」でしょ?

正解

避難は、「難」を「避」けること。つまり、安全な場所に行くことをいうんだよ。普段から家族でどのような避難ができるか話し合っておこう。

避難とは、河川の浸水想定区域や土砂災害警戒区域など、危険な場所の外へ身を移して、安全を確保することをいいます。

こんな避難があります

- **避難所への避難**　避難所へ避難する際は、開設状況を必ず確認しましょう。
- **親戚や知り合いの家への避難**　避難先は、避難所だけではありません。安全な場所にある親戚や知り合いの家に避難することも考えてみましょう。
- **２階以上の場所へ避難**　自宅が危険な場所にはない人や、逃げ遅れて外に出ることが危険な人は、自宅の２階など、上への垂直避難をしましょう。

2

誤解

避難所へ行くときは、一番近くの避難所に行くべきだよね?

正解

避難所は状況に応じて開設されるんだ。行く前に開設しているか確認することが大切だよ。

ID 1003234

日頃から近くの避難所をいくつか確認しておき、市が開設した避難所に迅速に避難できるようにしましょう。

避難所における感染症対策　ID 1023587

■避難所における感染防止に対する市の取り組み

- ▼感染症対策を踏まえた避難所開設訓練の実施。
- ▼感染予防物品の備蓄。
- ▼避難所開設数の拡大。

■避難に係る感染防止の注意点

避難所における感染防止のため、親戚や友人の家に行くなど柔軟な避難をしましょう。

正しい知識はあなたの味方になる

情報が溢れる現代。情報元や信ぴょう性を確認せずに、自分のとる行動を判断していませんか。

２０１１年の東日本大震災では、根拠のない誤った情報がチェーンメールなどで広がり、私たちの不安をさらに煽りました。

正しい知識を身に付けておくことは、自然災害が発生した際、適切な行動や判断ができるのはもちろん、誤った情報に流されず、不必要な不安を抱くこともありません。

また、誤った知識が原因で、被害を大きくしたり、命の危険を脅かしたりする可能性もあることも忘れてはいけません。正しい防災の知識は「いつか身に付ければよい」と思う人もいるかもしれませんが、大抵後回しになってしまうことが多いのではないでしょうか。

しかし、いつ発生するのか分からない災害への備えは、「いつか」では遅すぎるのかもしれません。

大型台風や局地的豪雨が頻発している今だからこそ、自分そして大切な人のために、一人ひとりが正しい知識を身に付けて、自然災害に備えましょう（上の記事参照）。

防災士の声

災害による被害を最小限にするには、「自助」が基本となります。どのような事態においても「自分の命は自分で守る」という備えが大切です。

県防災士会 副理事長
田﨑　瑞穂さん

日頃から、ハザードマップなどを活用して「地域の災害リスク」を知り、どんな時にどこが危険なのか把握しておきましょう。また、災害から身を守るための知識・意識を身に付け、家族や組織内で話し合うことや、訓練することも大切です。

あなたの家は大丈夫？

家庭内備蓄と非常持出品の準備

ID 1003237

チェックしてみましょう

- □貴重品
- □飲料水・食料品
- □携帯ラジオ
- □懐中電灯
- □応急医薬品
- □衣類・タオル
- □衛生用品（マスク・除菌シートなど）
- □メガネ、コンタクトレンズ
- □卓上コンロ
- □その他の生活用品（毛布・ろうそく・ビニール袋など）

災害時には、電気やガス、水道などが使えなくなることや、食料品や生活用品などが手に入りにくくなることがあります。

改めて必要なものを確認し、準備しましょう。

3

誤解
大切な情報は待っていれば勝手に入ってくるよね？

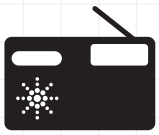
正解
**情報は待つんじゃなくて、自分で取りに行くことが大切だよ！
自分が使える情報の入手ツールを確認しておこう。**

市が発令する避難情報や災害情報の入手ツール

確実に情報を入手できるように、複数の手段で情報を確認しましょう。

テレビ

災害時、とちぎテレビなどを視聴中に、リモコンのdボタンを押すと、データ放送で災害情報などを見ることができます。



ラジオ

レディオベリーやミヤラジなどで、気象情報や避難情報などを放送します。防災ラジオもご活用ください（右下の記事参照）。

市ホームページ・ツイッター

災害発生時には、随時、市ホームページやツイッターで気象情報や避難情報を発信します。

▲ツイッター登録はこちらから

防災情報メール

登録しておくと、災害時の避難情報や避難所開設情報が自動で携帯電話やパソコンに送信されます。

▲メール登録はこちらから

わが家の防災マニュアル

ID 1003235

自然災害別の備え方や避難所、非常持出品や備蓄品などを詳しく掲載しています。各地区市民センターや出張所などに置いてある他、市ホームページからも閲覧できます。

防災ラジオ購入補助制度

ID 1019013

大規模な災害が発生した時や、発生するおそれがある時に自動で電源が入り大音量で流れる、緊急告知付き防災ラジオの購入を補助します（※）。

読者の声をお聞かせください

広報うつのみや+（プラス）は、年に数回編集します。これまで、冊子の真ん中に綴じ込んでいましたが、より多くの皆さんに読んでもらえるよう、今年度から巻頭ページで紹介していきます。

47ページのはがきで、テーマに対するご意見をお寄せください。

広報うつのみや+
台風第19号の「その後」を生きるについての問い合わせ先
ID 1023723
行政経営部危機管理課
☎(632)2053、FAX(632)7123
✉u2135@city.utsunomiya.tochigi.jp

「自助」「共助」「公助」で未来を変える力に

自然災害を予測することは困難ですが、日頃から「もしもの時」を想定して備えておくことはできます。

「自助」「共助」「公助」には、それぞれ限界がありますが、この三面で補い合い、その備えの積み重ねが、自然災害が発生した時に大きな力となり、被害の軽減につなげることができます。

つまり、今から備えへの行動に移すことで、私たちの未来は変えられるのです。

自然災害が発生した時、「備えていてよかった」と思える自分でいられるように――。

※防災ラジオ購入補助制度について、詳しくは、46ページをご覧ください。